

地域文化創造機構ニューズレター

Institute for Regional Culture Development Newsletter

Vol. 15

2015.11.25

活動報告

トピックス 1

將軍山祭で提携先出店にぎわう - 地域文化創造機構が、初めてテントで店開きをしました -

教育支援課
(地域連携担当)

八瀬林 昌雄

追手門学院と協定締結した岡山県真庭市及び岩手県普代村、地域文化創造機構の食のプロジェクトで協力関係にある茨木市の見山の郷が將軍山祭に出店、PRをしました！

【真庭市】

11月1日（日）、本年4月に「連携協力に関する協定」を締結した真庭市から6人の職員・関係者が来学し出店された「ひるぜん焼そば」。B-1グランプリ（B級ご当地グルメの祭典）でゴールドグランプリ受賞実績を持つだけあり、行列が出来る盛況ぶり。正午過ぎ、早くも300食あまり（1食300円）が完売！

勝山地区振興プロジェクトの「とみはら茶」（農薬を使用していない茶葉を使用）、ひるぜん山ぶどうのノンアルコールスパークリングワイン「風のシルフ」も人気があり、真庭市のアピールの一助となりました。



真庭市職員と「おうてもん」
ひるぜん焼そば店の前で



風のシルフ（左）
とみはら茶（右）

【普代村】

11月3日（火）、同じく本学と「連携協力に関する協定」を締結した岩手県普代村の特産こんぶ商品「こんぶ饅頭」、「昆布之介」（まんじゅう）、海の恵みの「わかめ」、懐かしい「三船のあいすきやんでえ」など山・海・陸の名産が揃いました。普代村の「こんぶ饅頭」の試食分150食は正午で無くなり、好評を博しました。8月に普代村へ派遣された地域創造学部1年生2人も、普代村から駆けつけ

た職員の方3人とともに模擬店を盛り上げました。

また、普代村出身で茨木市在住の方も来店され、郷里を懐かしんでおられました。



行列のできた「こんぶ饅頭」試食



普代村の特産品

【茨木市 見山の郷】

11月1日（日）・2日（月）、見山の郷（農事組合法人 見山の郷交流施設組合）が経営学部村上喜郁准教授のゼミ生と協力して模擬店を運営しました。野菜ジュレの商品化に向けてアンケートを実施。〈赤しそジュレ〉・〈ゆずジュレ〉の2種類を試食してもらい、感想を記入してもらいました。商品化に向け、分析が待たれます。定番商品となった「おうてもん赤しそ塩あんぱん」「赤しそサイダー」も人気がありました。2日には、本学のキャラクター「おうてもん」が、特別参加の「くまモン」に「おうてもん赤しそ塩あんぱん」「やさいジュレ」をプレゼント。見山の郷のPRをしました。



おうてもん
赤しそ塩あんぱん(上)
やさいジュレ(下)



ゼミ生と「おうてもん」が頑張りました

市民公開型授業「北摂を学ぶ」で 木本保平茨木市長が講演

地域文化創造機構 研究員 山本 博史
地域創造学部副学部長・教授

追手門学院大学は、立地する北摂地域の自然、地理、歴史、文化、経済、社会などに関する基礎的な知識を修得する市民公開型授業「北摂を学ぶ」（基盤教育科目・UI科目群）を開



木本保平 茨木市長

講し、3回に渡るまさに「茨木市3部作」とも名づけられる授業を展開しました。

第1部は、10月21日(水)に、河合博司地域創造学部教授が「茨木市という自治体と北摂地域の特質」というテーマで講義しました。

第2部は、10月28日(水)に、茨木市都市整備部次長兼都市政策課長・田邊武志氏により「茨木市都市計画マスタープランについて」というテーマで講義が行われました。現在茨木市

が検討している中心市街地道路における一方通行化の案がシミュレーション動画を用いて紹介され、受講学生からは一方通行化案を含め様々な意見がコメントシートに記載されました。

そして第3部は、11月11日(水)に木本保平・茨木市長による講義が行われました。茨木市のインフラ整備、産業、魅力などについて、



熱心に聴き入る学生や市民の方々

当初予定の40分を超えて1時間あまりの講義の後、質疑応答では受講学生10人ほどから質問の手が次々に上がり、授業は大いに盛り上がりました。

機構全体会議と北摂学の状況

地域文化創造機構 機構長 河合 博司
地域創造学部 教授

15年度の機構は、正副機構長と研究員計13名・学外客員研究員1名・特別顧問2名で活動しています。今回は、毎月第4木曜日定例開催の全体会議と機構独自の「北摂学」研究会の概況を紹介いたします。

全体会議は、正副機構長・研究員と事務局担当職員の参加で、活動内容と当面の予定の共有、月1回発行の「ニューズレター」のテーマと執筆担当の決定、機構の在り方の議論及び「北摂学」研究会の実施を約1時間半行っています。

学際的・実践的な地域・社会連携の深化と教育・研究への反映・循環を目指して、今年度から「北摂学」研究会を開始しています。4月23日、協定調印式を終えた^{まよや} 榎屋伸夫・岩手県普代村村長に報告願った“普代村”との交流会（村から4名参加）をプレ企画として、5月28日第1回 豊島副機構長『北摂学の開始にあたって』、6月25日第2回 峯俊研究員『世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」熊野参詣道保全と観光振興

の取り組み紹介 和歌山県田辺市本宮町を対象として』、7月23日は普代村若手職員7名を囲む交流会、9月24日第3回 安村研究員『観光振興の岐路「観光づくり」か、それとも「観光まちづくり」か？奈良市「柳生の里」の事例から』、10月29日第4回 加村研究員『クモの話』と、各研究員の専門的報告を興味深く学びつつ、『北摂学』にどう反映させていくのか、実践的で自由な議論が展開されています。飛び入り参加、大歓迎です。



交流会での意見交換。榎屋伸夫・岩手県普代村村長 他

地域文化創造機構 ニューズレター

発行 / 追手門学院大学 地域文化創造機構

お問い合わせ

追手門学院大学 地域文化創造機構 「連携考房 童子」
〒567-0816 大阪府茨木市永代町4-202 (阪急茨木市駅前「Socio-2」2階)
TEL:072-621-6015 FAX:072-622-1360 E-mail:douji@otemon.ac.jp